

【 資料－2 】

- ・ 第2回流域委員会の意見と対応について

平成26年3月19日

第2回 庵原川水系・波多打川水系流域委員会（H25.10.29）の意見と対応

項目	委員意見	対応
津波対策について	<p>（山西委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庵原川下流の東側にはコンテナ基地があり、西側には石油基地がある。津波が来た場合、近くのコンテナが流れることを住民は心配している。港湾と相談して協力体制で取り組んで欲しい。 ・満潮時には、JR 橋梁付近まで潮が上がる。満潮時に津波が発生した時が心配である。 	<p>（田中委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の津波の状況や津波の衝撃力を考えると、コンテナが流されることは非常に心配である。住民にも関心を持ってもらい、今後県や市に相談されると良い。
	<p>（市川委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・L1 津波に対する施設規模で整備した場合の L2 津波に対する低減効果は、算定済であるか。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算定済みであり HP で公表している。（HP 掲載図面で説明） ・減災効果は、津波の浸水域、浸水深、主要定点における到達時間の3つの指標により評価している。
	<p>（板井委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・L1、L2 津波の違いが定義だけでは解りづらい。住民との意見交換会では、具体的な津波高を示して説明した方が良い。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・了解した。
JR 橋梁の改修について	<p>（板井委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 橋梁は改築案が最も望ましいと思うが、JR との協議により、補強案を先行するのではないかと想像している。 ・橋脚補強後に河床を下げると、下流の市道橋にも影響がある。河床を下げる場合は、市と協議の上、十分検討する必要がある。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下流の市道橋は、将来計画河床高を見込んで補強済みであり、護岸も根入れを深く整備済みである。このため、河床を下げても構造物は対応できると考えているが、市道橋の耐震補強計画もあるため、今後、市と調整していきたい。

第2回 庵原川水系・波多打川水系流域委員会（H25.10.29）の意見と対応

項 目	委員意見	対 応
JR 橋梁の改修について	<p>（山西委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JR 橋梁の改築案は、様々な問題によりすぐにできる状況でないことは我々も把握している。このため、補強案で早急に進めてほしい。 	<p>（田中委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備計画では、ある程度現実的な計画を選択していく。 <p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改修方法の検討における判断材料として、この委員会でのいろいろな意見を聞かせてほしい。
	<p>（板井委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JR 橋梁の改修により、シロウオの産卵場所が荒らされることはわかるが、出来るだけ上流に産卵環境がまた形成されるよう配慮してほしい。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に工事施工するに当たり、必要に応じて環境調査を実施する。シロウオの産卵場所の保全は今後、板井委員に相談したいと思う。 ・ 今回原案作成において、工事実施にあたっては、シロウオの遡上・産卵・孵化期に配慮するとともに、必要に応じて有識者の助言を得ることを明記した。 <p>（原案本文参照）</p>
	<p>（山西委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月20日に袖師地区住民2,500名で庵原川の草刈りを実施した。 ・ 治水ばかりでなく、環境問題も両立させていきたい。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治水と環境について、調和を図りながら整備計画をつくっていきたい。
その他	<p>（板井委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津波と JR 橋梁の改修は重要な問題であるが、多自然川づくりを基本に計画を策定してほしい。また、親水性を持たせた計画としてほしい。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回原案作成において、現況河床を可能な限り残し、礫や巨石等を存置し、瀬・淵等、良好な自然環境、生物の生息環境の保全を図る断面形とした。 ・ また、親水性の向上を図るため、護岸勾配を緩くした。 <p>（原案本文参照）</p>

第2回 庵原川水系・波多打川水系流域委員会（H25.10.29）の意見と対応

項 目	委員意見	対 応
その他	<p>（板井委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考資料図の河川環境情報図において、2頁目の全体図が見づらい。広瀬橋上、東名下などの情報を小さくするなど、改善してほしい。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・凡例を追加した。（参考資料参照）
今後のスケジュールについて	<p>（中野委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民との意見交換会は、素案のできる前に実施してほしい。 	<p>（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な整備内容を盛り込んだ素案を作成した後に、意見交換会を開催したい。